



(茨木市章)

(ミネアポリス市章)

姉妹都市

SCA

ニュース

協会報

第 7 号

昭和61年 5月17日発行

編集・発行

茨木市姉妹都市

協会

1,200人の市民が見守る中、調印する重富市長(右)と謝市長



中国

安慶市と友好都市提携結ぶ

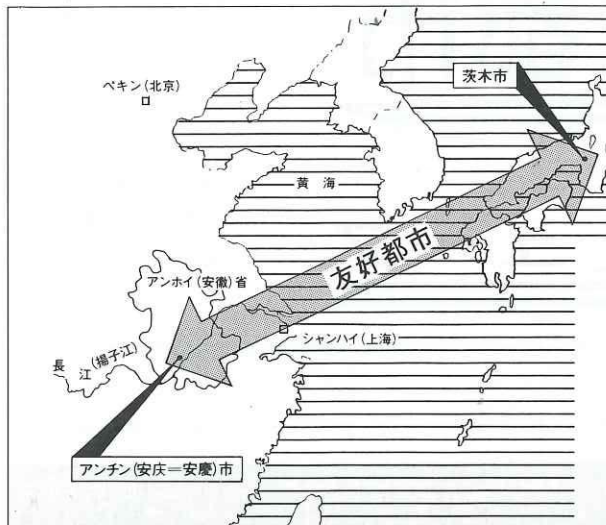
市民交流の輪の広がりを期待

昨年10月5日、本市と中国・安慶市との「友好都市提携調印式」が市民会館で行われ、市民約1,200人の見守る中、両市長が議定書にサインし、永遠の契りを結びました。

席上、重富市長は、「両市の交流は、日中のみならず、アジアにとっても有意義なことと信じます」とあいさつ。

今後両市では、この提携を「かけ橋」にして、経済、科学技術、文化、都市建設など、幅広い分野での交流と、市民と市民との交流の輪が広がることを期待しています。

なお、この提携に伴い、姉妹都市協会では、5月に開かれる総会において、「茨木市・安慶市友好都市委員会」の設置を予定しています。



豊富な資源生かし

茨木市とよく似た

安慶市は、上海から長江(揚子江)をさかのぼること約700キロ。鹿児島県の種子島と同緯度があり、四季の変化が顕著で、市内には、多数の湖が散在し、全面積の16%が美しい水面におおわれ、豊かな自然に恵まれた環境は茨木市とよく似ています。

面積は、茨木市の約6倍、43万人の人口を擁する安徽省の直轄市で、省の中核都市として発展しています。安徽省の物資集散の中心地でもあり、揚子江岸には5千トンのクラスの旅客船や貨物船、1万トンのクラスのタンカーが停泊できる港をもち、揚子江水運の重要港の一つとして繁栄しています。

安慶は、古く三国時代(魏・呉・蜀)には皖城として呉と魏が攻防の火花を散らした重要な地点で、太平天国の乱に際しては、南京と湖南を結ぶ交通の要衝として太平軍が死守した歴史ある地です。清の時代(1640—1910年)の初期に安徽省が設置され、以来1937年まで約300年



揚子江から振風塔を望む

茨木市

交流のあゆみ

永く市民が待ち望んでいた中国都市との友好交流——昭和58年、茨木市議会議員の有志と市民で構成された中国友好親善訪問団が訪中し、安徽省の紹介で安慶市の政府要人と友好を深め、安慶市長から茨木市長あての親書を預り帰国しました。これをきっかけとして、その後、安慶市長から茨木市長、茨木市議会議長あて「両市は、お互いにお似合いの相手であり、近い将来友好都市提携が実現するもの

と信ずる。年内に茨木市を訪問したい」との友好都市提携に対する熱い希望が寄せられたものです。

これを受け、市議会、市姉妹都市協会も中国都市と友好交流を進めることは時代の要請であるとの集約を行い、昭和59年10月、謝永康安慶市長を



団長とする友好親善代表団5人が初めて本市を訪問。一行は、重富市長、西浦議長(当時)をはじめ市理事者や市議会各会

発展する安慶市

気候・自然環境

間にわたり省都として栄えました。

安慶市は、古くから安徽省西南部の経済・貿易の中心地で、水産・山林・鉱物など豊かな天然資源が集まる加工地・集散地として繁栄してきました。現在では、石油化学工業、軽紡績業、食品工業を中心に急速に工業化が進んでいます。中でも、1978年郊外に稼動した安慶石油化学コンビナートは、近代技術の粋を集め、年間250万トンの原油加工、52万トンの化学肥料生産能力をもっています。また、紡績工業は、安慶市の伝統産業であり、綿織物、メリヤスなど市の工業生産高の半分を占め、紡績工場は、中国でも屈指の先進的企業として有名です。150余年の歴史をもつ食品工業は、安慶市で最も歴史が古く、食品、果物、野菜などを加工し、諸外国へ輸出しています。

安慶市は、観光資源にも恵まれ、揚子江沿岸の仏教の名刹で、974年建立された迎江寺の境内には、安慶市のシンボル振風塔がそびえ立つとともに、有名な菱湖公園は、憩いを求める市民でにぎわっています。また周辺には、黄山、九華山、廬山など有名な景勝地があり、観光の中心地としての発展が期待されています。



▲工業化が進む食品(上)紡績(中)工場とコンビナート



派幹事長並びに市民各界各層との交流会議、工場・公共施設見学、親善交流会等を通し、友好都市

提携実現へ向けての第一歩を踏み出しました。

翌月には、答礼として重富市長を団長に西浦議長(当時)を副団長とする茨木市訪中友好代表団7人が安慶市を訪問しました。現地では、市長はじめ関係者の熱烈な歓迎を受け、両市は昭和60年中

に友好都市提携に向けて、諸条件の整理を行うなど親善計画を推進することで合意し、両市の友好交流促進への大きな成果と礎を築きました。

この後、安慶市からは安徽省科学技術視察団、



中国駐大阪総領事館の鄭国仕領事と汪館員、訪日医療視察団が相次いで茨木市を訪問する一方、茨木市からは、昭和60年3月

安慶市

相互訪問で

書・児童画などの

友好都市提携調印式に出席のため、10月2日から本市を訪れていた謝永康安慶市長ら友好代表団12人は、9日、友好の灯をたずさえ、帰国されました。

訪れていた一行は、市長、議長の表敬訪問、幼・小・中学校(園)などの教育施設をはじめ、市内の工場を見学するなど、過密なスケジュールをこなしました。

また、調印後開かれた“友好交歓のつどい”には、府議、市議はじめ、関係諸団体の代表など150人が集い、調印を祝うとともに、温かい交流を深め合いました。

調印へ代表団12人が来茨



歓迎のあいさつをする重富市長(上)と歓迎の花束を受ける謝市長ら



教育現場を視察する一行



中央卸売市場で



両市の友好をさらに深めました。

友好都市提携の機を熟した昭和60年10月5日市民会館において市民約1,200人が見守るなか、両市は子々孫々にわたる固い契りを交わしました。

と9月本市選出の府議会議員加藤法瑛氏が、二度にわたり安慶市を訪問、4月には林業家城阪光弥氏(能勢町在住)が訪申し、

同月、調印後初めて重富市長、塩貝議長(当時)はじめ各会派幹事長などで構成された、茨木市友好訪中代表団が安慶市を訪れ、具体的な交流計画に合意するとともに、緑化事業を推進する安慶市へ友好の証として、栗の苗木500本の目録を贈りました。苗木は、城阪氏が植樹し、友好の果実が一日も早く実ることが期待されています。





深まる交流

茨木市

作品交換も計画

調印後初の訪中団

安慶市との交流内容を具体化させるため、10月24日、重富市長を団長とする市友好訪中代表団18人が安慶市を訪れ積極的な交流を展開し、29日帰国しました。

安慶市入りした一行は、栗の苗木500本を寄贈したほか、紡績・コンビナートの工場見学、小学校等の視察をしました。

また、調印を祝い開かれた「音楽の夕べ」には、安慶市民1,500人もかけつけ、黄梅劇や歌を披露しました。

今後の交流としては、友好訪問団の相互派遣、書画等作品交換などが話し合われました。

▲紡績工場を見学する一行(上)と小学校訪問も大歓迎▼



自転車が目立つ中心街

日本国茨木市・中華人民共和国安慶市
友好都市締結議定書

日本国茨木市と中華人民共和国安徽省安慶市は、日中兩國政府の民間交流及び自由平和友好協力の精神に照り、日中兩國国民の伝統的な友情を深め、両市間の平和的、友好的な協力関係を発展させるために、互いの協議・決定により、正式に友好都市関係を締結する。

両市は、友好都市締結を新たな出発点として「平和友好、平等互恵、相互信頼、長期安定」の原則に基づき、工業、農業、貿易、科学技術、文化、教育、医学、体育、観光、都市建設等各分野での広範な交流・協力を努めて推進し、子孫にわたる日中の友好と平和、両市の経済的繁栄と市民の幸福のために積極的な貢献をなすことを議定した。

本議定書は、1985年(昭和60年)10月5日、日本国大阪府茨木市において調印。日本文及び中国文の各二部を作成し、同等の効力を有するものである。

茨木市長及び安慶市長は、両市市民を代表して本議定書に署名し、その効力は、署名の日をもって発効するものとする。

日本国
大阪府茨木市長

中華人民共和国
安徽省安慶市長

重富敏之 謝永康

調印式の16ミリフィルム 清野氏が安慶に寄贈

北春日丘二丁目の清野耕作氏は、今回の調印の様様を、16ミリ映画に収め、安慶市にプレゼントされました。



これは、清野氏が「両市の友好の証となれば」と撮影から編集まで無償奉仕されたものです。

協会設立5周年記念講演会

姉妹都市は友情の「かけ橋」

「国際社会における市民外交」300人が学ぶ

本協会設立5周年を迎え、昨年9月28日、これまで行ってきた交流を一から見直そうと、「国際社会における市民外交」をテーマに記念講演会を行いました。

講師は、諸文化比較の権威で、関西外国語大学で「諸文化コミュニケーション論」を教えているホーリ・C・シバートさん。

これまで、同様のテーマで数多くの講演を手がけてきたシバートさんは、姉妹都市交流とは何かを茨木市とミネアポリス市との交流を例にとりながらわかりやすく解説。人を引きつける話しぶりに、会場の市民300人は熱心に聴き入っていました。

講演の中でシバートさんは、「世界に姉妹都市を持つということは、異なった国の異なった市民の間に友情のかけ橋をかけることであり、人々に新しい家族をつくる機会を与えることです。そして、新しい家族のことを学ぶことは、自分自身をも良く知ることであり、私たちが多くの姉妹都市関係を築いていけば、人々はより良い相互理解と世界平和のために、積極的に働いているといえます。」と述べられました。



文化ホールで開かれた記念講演会



これは、1956年に故アイゼンハワー大統領が提唱し、本協会が活動のよりどころとしている「市民と市民の交流により世界平和をめ

ざす」という理念と一致するものです。

市民一人ひとりが交流に参加することの大切さを教えてくれたこの講演会は、私たちがより積極的な交流を進めていくための大きな力を与えてくれました。

なお、講演の原稿（英文・和文）をご希望のかたは、協会事務局までお問い合わせください。

国際交流にご参加を 協会会員を募っています

本協会では、国際親善に熱意を持っておられるかたがたの入会を心からお待ちしています。

〈会費(年額)〉 個人会員 (一般) 2,000円
(学生) 1,000円
団体・法人会員 一口 5,000円

〈申込先〉 協会事務局 (市役所3階自治推進課)
会員には、会員証をお渡しするほか、協会報

などによる本市国際活動情報の提供、会の催す姉妹・友好都市との交流行事ほか各種行事へのご案内などの便宜をはかります。





表現豊かにスピーチする参加者

21世紀担う青少年に国際感覚を

市民300人を前に「英語スピーチ大会」

本協会では、国際感覚に満ちた市民社会の形成と、次代を担う青少年の国際感覚の涵養に資することを願って、一昨年から中学生・高校生を対象に英語スピーチ大会を実施していますが、その第2回大会を、菊の花が咲き誇る昨年11月3日の文化の日に、茨木市福祉文化会館文化ホールで開催しました。

第21回茨木市教育月間行事のひとつとして行われたこの大会には、中学生15人、高校生6人が参加、「My Dream」または「A Special Homerun for Johnny」の2つの暗唱文の中から1つを選択し発表する中学生の部、3分間の持ち時間で自由に創作発表する高校生の部とも、日頃の成果を十二分

に発揮し、その堂々としたスピーチには、会場を埋めた約300人の市民が、惜しめない拍手をおくっていました。

また、今回から、審査集計の時間を利用して審査の先生がたによるモデルスピーチを披露。本場の英語に、出場者、聴衆とも熱心に耳を傾けていました。

最後に行われた講評では、審査委員長の神戸女学院大学教授キャサリン・プロデックさんから「第1回大会に比べ、会話のできる生きた英語になってきました。特に中学生の表現がすばらしく、

全体のレベルアップに驚きました。これからも、国際感覚を身につけるため、英会話の勉強に励んでください。」との言葉をいただきました。



第2回茨木市 英語スピーチ大会
姉妹都市協会

英語スピーチ大会の入賞者たち



口の開け方も大切なレッスン

英語力・国際感覚の向上に 「姉妹都市活動室」へどうぞ

姉妹都市活動室では、英語力および国際感覚向上のため、講演会、研究会などを原則として英語で行っています。

例会は、月2回、福祉文化会館内で開いています。

- 〈例会〉 木曜会 第1木曜日 10時～12時
- 土曜会 第3土曜日 14時～16時
- 〈会費(年額)〉 正会員 1,000円 (18歳以上)
- 準会員 500円 (中・高校生)

茨木市における国際交流の足あと

— 第6号以降の経過 —

(1985年)

- 60・9 「姉妹都市ニュース」第6号発行
- 9 府議会議員（協会顧問）加藤法瑛氏と協会理事辻野良彦氏安慶市訪問
- 9 協会設立5周年記念講演会開催（福祉文化会館文化ホール）
- 10 安慶市友好代表团（謝永康安慶市長ほか4人）および安慶市経済貿易友好代表团（張立一安慶市人民代表大会主任ほか6人）来茨
- 10 友好都市提携調印式典挙行（市民会館大ホール）
- 10 ミ市水上祭一行（湖の女王ジュリー・メリンさんほか3人）大阪21世紀協会と加藤府議の招きで御堂筋パレードに参加
- 10 茨木市友好訪中代表团（重富市長、塩貝議長ほか16人）安慶市訪問
- 11 ミ市・茨木市姉妹都市委員会委員長ロジャー・クレイマー氏来茨。次年度の交流計画について会談
- 11 第2回英語スピーチ大会開催（福祉文化会館文化ホール）
- 11 「安慶市紹介展」開催（ライブラリーフェスティバル）
- 12 ミネソタ州日本教育研究視察団一行15人来茨



御堂筋パレードの
水上祭の女王ら



ライブラリーの安慶市コーナー



市長と握手するホフマン氏



寄付を渡す加藤会長

(1986年)

- 61・1 ミ市・茨木市姉妹都市委員会委員ジェームス・R・ホフマン氏来茨
- 1 ミ市少年野球チーム監督ガーリー・ダウニング氏来茨。今夏のミ市少年野球チーム来茨について打合せ。
- 3 ミネソタ大学教授ジョセフ・メステンハウザー氏夫妻来茨
- 4 茨木オークライオンズクラブが市民チャリティーショー「日中友好歌のかけはし・わが町ふれあいまつり」を開催（市民会館大ホール）。その収益の一部50万円が本協会に寄付される。
- 4 清野耕作氏夫妻（北春日丘二丁目）、城阪光弥氏（能勢町）、茨木市農林課主幹池尻伊一氏安慶市紹介映画撮影と農業指導に安慶市を訪問。
- 4 元ミ市議会議員グラディス・ブルックスさん来茨

事務局が変わりました

市に国際交流係を新設

国際化時代に対
応できる窓口を設けるため、4月1日の機構改革で、市長公室自治推進課国際交流係が新設されました。

同係では、姉妹都市および友好都市を中心に、世界の各都市との友好親善をはかる事務を担当します。これにより、これまで市長公室人事課

内にありました本協会事務局を、同課に移設しました。

新しい姉妹都市協会事務局の連絡先は次のとおりです。

所在地 駅前三丁目8番13号、市長公室自治推進課国際交流係（市役所3階）

電話 0726 (22) 8121 (内線2143)